令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390100659		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）		
所在地	岩手県盛岡市神子田町6-12		
自己評価作成日	令和2年 月 日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームでは、フロアを広く取り、陽光あふれる明るいリビングにゆったりとみんなで楽しく集う場、自由にありのままに暮らして頂く快適な空間を提供しております。裏庭に畑やミニ公園を造り、その人がその人らしい暮らしができるように支援しております。また、協力医と訪問看護との連携を図り、普段の健康管理や異常時、緊急時の対応が敏速に出来る体制をとっております。医療機関との協力体制をとり看取りも行っています。地域での関わりでは、夏祭り等の協力や参加、町内の避難訓練や施設の避難訓練を互いに参加し合うなど、地域の繋がりも持ちながら会社としての理念「共に和み 共に生きる」を軸に施設理念「心・和・楽・笑」をモットーに地域に根ざした施設を目指しております。安全で快適な暮らしができるよう、職員一人一人の質の向上を図りながら取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅地にある、1階きらり棟と2階しずく棟の2ユニットの事業所である。法人の理念を念頭に、職員で話し合いを重ねた結果、事業所として「共に和み共に生きる」を運営の基軸として「心・和・楽・笑」を理念として定め、さらにユニット毎に目標を掲げ、日々支援に取り組んでいる。また毎年家族アンケートを実施し、介護の取り組みや医療、職員の対応等、運営に対する家族の意向を確認し、出された内容については、職員会議で共有し合いながら、サービスの向上に活かしている。また、事あるごとに地域と声を掛け合いながら、避難訓練の協力や事業所の夏祭り、行事等に参加して頂いたり、秋田の中学校の体験学習の受け入れなど、これまでも開かれた事業所を目指して地域と連携して取り組んで来ている。常に利用者と家族の思いに寄り添いながら支援に励み、更なる質の向上を目指し、取り組んでいる事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み、共に生きる」を理念に掲げ、ご家族様、地域社会、行政等々との調和と融合で、利用者様が安心して過ごして頂ける様、「心・和・楽・笑」を職員間の共有理念にし、共に日々成長できるように全職員で業務に取り組んでおります。	開設3年目に当たる年に、法人の理念をもとに職員で話し合いを重ね「共に和ごみ共に生きる」を基軸として、事業所独自の理念「心・和・楽・笑」を作りあげ、更にユニット毎に具体的な目標を掲げ、日々の実践に取り組んでいる。	介護サービスの意義を踏まえ事業所独自の理念を策定し、日々実践されております。今後は、若い世代の職員と理念の意義等を共通認識出来るよう、「理念に込められた思い」を伝える取り組みを進め、職員の意識を一にして、事業所理念を活かしたサービス向上を目指されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加をしたり、ホームの行事への参加を促したりしながら地域とのつながりを大切にし、声を掛け合いながら交流を深めている。行事があるきに限定されており、日常的には交流を図れていない。	町内会に加入し、回覧板をやり取りし地域の行事にも参加している。八幡宮の山車の訪問と音頭上げ、ばんとう祭りでの子供たちの訪問、事業所の夏祭りへの住民の招待、住民の運営推進会議への参加や緊急通報先の登録など、住民との繋がりや交流を大切にしている。事業所の夏祭りには衣類の移動販売もあり好評を得た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、施設での介護体験談、地域の方々の家庭での介護体験談を通して職員の実務経験や知識が役立てられるよう相談、助言にあたったり、相互に役立てられる支援方法を模索しあたっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月ごとに開催し、利用者状況や施設の取り組み状況・今後の取り組みや行事等の中で意見、助言を頂いて改善等に努めている。	2ヵ月毎に開催し、委員は町内会顧問、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者、事業所職員で構成され、利用者の状況や様子、行事、事故やヒヤリハットなどを報告し、意見や助言を頂き改善に努めている。出された問題点はフロア会議で話し合い、会議録に記載し職員で共有しながらサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や認定調査等の関わりや相談に乗って頂いたり、運営推進会議での報告や施設新聞等などを届けて実情報告などをしている。	運営推進会議の会議録や事故報告の提出、要介護認定申請の際には直接出向き、不明な事項の相談に乗って頂くなど、顔馴染みとなり協力関係が出来ている。研修等の情報も市から頂いている。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内会議や身体拘束廃止委員会で、身体拘束の内容とその弊害の再認識、再確認を行ない、身体拘束をしないケアの実践方法を話し合い、全職員で共通の認識を持ち、安全で自由な暮らしができるよう努めている。	3ヵ月毎に身体拘束廃止委員会を開催し、スピーチロックを含め、具体的な行為についての在るべき実践方法を話し合い、身体拘束しないケアについて検討を重ねている。全職員が、内部又は外部の研修を通し、共通認識のもとで日頃の介護に取り組んでいる。家族の了承を得て、転倒防止のための離床センサーを全体で5人、また布団やドアに鈴を付けている人も同じく5人いる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会にて、虐待に関しての研修内容を決め、研修を行い全職員で共通認識を持ち、介護にあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会を得た職員が、職員会議や地域推進会などで内容や活用法など話し合いを持つ機会を作り、理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、契約時に契約内容をご家族に十分に理解把握して頂ける様に分かりやすく説明し、また入居中、入院、退居時など、その都度相談を受け、疑問点などにも理解納得いくよう、速やかに対応を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議に参加されたご家族に生活や活動内容を把握して頂き、面会時等も含め、意見や要望などを話しやすい雰囲気を作りながら、参考にさせて頂いたり、要望にも出来る限りの対応を行なっています。	毎年家族アンケートを実施し意見や要望を伺い、必要な事項は会議で話し合いその結果を家族に報告し、改善を図っている。毎月発行の事業所新聞について、「個人の写真だけでなく他の利用者の様子も知りたい。」「体重も知らせてほしい」との家族の声を受け、全家族了承のもと利用者全員の写真掲載と担当職員のコメント、体重を記載するようにした。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議の会議録は回覧し意見交換をしたり、会議の中や普段でも感じた事等の意見・要望は聞き、運営に反映できるようにしている。意見BOX活用している。	職員の要望で設置された意見箱は、毎月のフロア会議で開示し、経費の削減等、提出された意見等を協議し運営に反映させている。また、 日々、感じた事や意見、要望を口に出せるよう、話しやすい関係が出来ている。年2回の個人面談での話し合いは、職員の意欲に繋がるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福祉部会において、施設の現状、職員勤務状況等や個別面談での職員の声や状況を伝えている。キャリアパスを取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別面談にて、個々の職員の現状での体調、働く意欲、研修希望、資格取得、認知症の理解度等を把握し、ユニット異動や施設内研修や外部研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会に加入していることで、研修の機会や同業者との交流を図れる事ができ、相談や取り組みの参考や思いの共有など、意欲やサービスの質の向上に反映している。今年度はコロナ禍にて交流が図れていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症により思いを口にできない人が多いが、ご本人の行動から思いをくみ取ったり、ご家族からお話を聞き、ご本人に寄り添っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活状況やご苦労、入居に至る経過やお気持ち等への傾聴、理解に努めております。ご家族とのコミュニケーションも大切にし、気持ちに添えるよう最善を尽くしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身状況を把握しながら、ご家族のご意向を聞き相談、助言の上、支援内容を決めサービス提供させて頂いています。他のサービス関しても、要望を聞き、提案させて頂き対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様、一人一人とコミュニケーションをとっていく事は大切であり、その中で人生観や学ぶべき事も沢山ある。できる範囲の家事も行っていただき、お互いに助け合って生活しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活と心の安定を図れるように、ご家族と情報を共有し、お気持ちに寄り添って一緒になって支援するという形をとっております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの関係を知り、ご家族と連携を取って関係の継続ができるよう支援する。思い出の場所などもドライブしながら寄ってみたり、面会を促して会う場面を作っている。	ドライブの途中で思い出の場所に立ち寄るなど、馴染の関係が途切れないように支援している。最近は介護度が進み、行きたい場所の希望や要望が少なくなってきている。通常の家族面会の頻度は、週に2回、月に1回、年に2回と様々だが、コロナ禍の最中にあっても関係継続のため、家族面会を検討している。毎月訪れる訪問理美容師やマッサージ師が馴染の人になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人過ごされる時間や場所を大切にしながら、入居者同士の距離感を保ち、会話やレク等関わりを持つ中で、共同の作業を行ない支えあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は取り組んでることはないです。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の「○○したい」、「○○ほしい」という思いを聞き逃さず、実現に向けて努力している。	散歩時の何気ない会話や新聞を見ている時のつぶやきなど、利用者と職員の日々のコミュニケーションを通じ思いや意向を把握している。意志表示が難しい方は全体で数名いるが、家族からの聞き取りや利用者の表情などから把握している。気付いた事やつぶやきの言葉は申し送り時に伝えあったり、連絡ノートに記載して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	テレビや新聞、ふとしたきかっけを話題にして、思い出話を引き出し傾聴している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	近況の申し送りなどで情報を共有し、声掛けの反応を見て体調を推し量るなど、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で利用者様への気づきや問題点を取り上げ、対策や対応の仕方などアイディアを出し合い、介護計画に反映させている。	家族や医師の意見も参考にしながら、3ヵ月毎に担当職員がモニタリングし、全職員で行動、体調、気になる点などを話し合った上で、プランの見直しを行っている。コロナ禍のこともあり、家族にはプランの案を郵送し状況の説明や変更箇所に付箋をし、しっかり見てもらうよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議で出たアイディアを実践し、その反応を職員間で共有している。個人での思い付きも日々実践し、反応が良ければ共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様の状況に合わせて柔軟なサービスを行なえるよう留意している。ニーズに合わせたサービスの提案をさせて頂きご要望に応じている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1度、運営推進会議を開き、地域の方々やご家族様に参加して頂き情報交換を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前の主治医との関係を維持しいけるように、基本的に家族支援で受診をしているが、ご本人の状態や家族の状況の変化により、困難になった場合は往診など相談に応じて適切な支援をしている。	全体で4名が入居前のかかりつけ医を家族付き添いで受診している。受診の際には受診連絡表を家族に託し、医師からは受診時の状態を記入して頂いている。協力医による月2回の訪問診療は14名が利用している。毎週来訪する訪問看護ステーションの看護師から、月1回口腔ケアの指導も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携を図り、普段の健康管理や観察、ケアのポイント指導等互いに情報提供し合い、介護と看護で共有し支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には心の安定を図れるように面会するようにしている。また、医療機関と情報交換を行なったり、ケアについてのアドバイスを頂いたりしている。普段から受診時等に相談や情報共有し、関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、ホームで出来る事の説明を行ない、状態変化に応じ同じ方向性を持って、医療・家族・施設で連携をしてご本人様が「1番いいケア」をチームとなって行なっている。	入居時に看取りマニュアルに基づき重度化や終末期の対応について説明している。状況が変わった都度家族や医療関係者と話し合い、家族の気持ちに添いながら不安を感じさせる事のないような支援に努めている。これまでの看取りは、全体で10人に上り、医療関係者、家族、事業所が連携をとってチームで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の体調変化に気づいた場合の対応、手順、医療機関との連携体制は確立しているが、訓練は行っていない。判断が難しい場合はその都度、訪看に連絡を取ったり、管理者の指示を仰いでいる。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は実施したが、避難行動開始の判断、夜間帯の手薄もあり、今後の課題もある。	消防署や職員、地域協力者への自動通報装置を設置し、火災想定の訓練を消防署の立合いで1回、夜間想定で1回の年2回実施している。運営推進会議委員の協力のもとで訓練を行い、また夜間想定の訓練では、自動通報システムを利用し、地域の方々にも参加して頂いている。ハザードマップで浸水想定地域に指定されいるため、八幡宮への避難訓練も考えたいとしている。3日分の食糧、飲料水と防災バックの他、ストーブ等を備蓄している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様であり、人生の大先輩として一人一人を尊重した言葉遣いや配慮した接し方をしている。	入浴やトイレ誘導の際の声掛けには十分配慮している。部屋への入室の際にはノックし、お話しする時には苗字にさん付けをしたり、「ばば」等呼び慣れている言葉を好む利用者には、その呼び方で対応する等、一人一人に合せながら、利用者の人格を尊重した言葉遣いや接し方を励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が叶えられる様、少しの事でも出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の暮らしの意向を理解し、利用者様一人一人に応じた生活になるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	残存能力を奪わないよう、鏡の前でご本人で身だしなみを整えていただいている。お化粧なども一部介助し、おしゃれを楽しんでもらっている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	量だったり、盛り付け方などで、手を付けない利用者様もいるので、その方に合った量や、料理に合った食器を使ったり、盛り付けの工夫をしている。季節の感じられる献立考えている。声掛けで片付けも行っていただいている。	献立は、利用者の話しの中から好みを把握し、残食を見て工夫しながら職員が一週間交代で作成している。朝は外注したものを提供し、昼と夜はフロア別のユニット毎に職員が作り提供している。中庭で採れた野菜を収穫し、食材に取り入れて喜ばれ、正月のおせちや敬老会の巻き寿司、ひな祭りのちらし寿司などの行事食は利用者に好評としている。おやつのクレープづくりに喜んで参加し、おしぼりたたみやテーブル拭き、下膳など、出来る事を職員と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理・盛り付け時に栄養バランスや量を調整している。一人一人の好き嫌いに合わせて、献立も変化させている。水分量は生活記録表を元に判断し、声かけしたり、必要に応じて介助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導をもとに、声掛けや介助しながら口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録表を元に声掛けし、トイレ誘導し介助をおこなっている。また、利用者様の様子や表情を訴えを見逃さずトイレでの排泄を行っている。	生活記録表をもとに排泄をチェックし、声掛けをしながらトイレ誘導を行い、失敗を少なくしている。布パンツ使用の方は全体で2名で自身で排泄出来ている。オムツ使用は2階の1名だけで、他の方はリハビリパンツとパットを併用している。夜間のポ―タブルトイレ使用は1階の1名、センサーマット使用者はいない。職員は今の状態が維持出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、食物繊維の多い食材を献立に盛り込んだり、乳製品を提供したりと、ため込まずに排便できるよう個々に応じて工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めて行っているが、入る順番などはその時の本人の状態や気分に合わせて行っている。場合によっては別日にして行っている。入浴剤などを用いて、気分転換を図れるように努めている。	入浴は月曜日から土曜日の週3回を基本にしている。入浴を嫌がる方には、無理をせず気分の良い日の入浴とする等、順番や時間などは利用者の希望や状況に合わせて実施している。気分転換を図るために入浴剤を入れるなどしている。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯は室温・明るさを調整し、安眠できる環境づくりを行っている。日中はご本人の希望または夜間帯の睡眠状況や体調を考慮し、ベッドで休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が処方されている薬を把握し、介助にて服薬していただいている。主治医や薬剤師から助言をいただき、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から個々の能力・残存機能を見極めた上での創作活動をおこなっている。完成品は壁に貼り、喜びを分かち合っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍に置いて外出が難しいが、近場など天気の良い日は外に出かかれるよう支援している。	天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、中庭にテーブルを出し、おやつを食べたり外気浴をしている。春にはドライブで高松の池に行き、お花見見物などの外出支援に努めていたが、それもコロナ禍の中では難しくなってしまった。今後の状況を見ながら車を利用した紅葉見物を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が難しくなっており、1Fでは1名の利用者様だけがお金を所持し、必要に応じてご本人が使用している。その他の方々はご家族に承諾を得て、立て替えで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあった際は電話の支援をしている。月一で手紙のやり取りを行っている利用者様の支援を行い、ご本人、親族ともに大変喜ばれている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ（1Fきらり）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には季節ごとの風景を利用者様と創作した作品を掲示している。ソファーの位置をリビングの中央に置き、入居者様が集まりやすい空間を作っている。窓からの陽光を十分に取り入れ、明るく居心地が良く一定の室温に管理をし、快適な暮らしが出来るよう心がけている。	安全で快適な暮らしをして頂くため、両ユニットともバリアフリー設計で、皆が集うホールは食堂を兼ねた広いスペースになっている。食堂のテーブルの横にはソファーが置かれ利用者がゆったりと寛げる場所となっている。壁面には、利用者と職員との合作の貼り絵や季節に合った装飾が飾られ、美化係が毎月工夫を凝らし取り替えている。季節感を採り入れながら、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアテーブルも間隔を開けて設置したり、ゆったりと過ごせるソファを設置し、自分の場所が一人一人にあるのでその場所で気の合った方と思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、馴染みの家具や使用していたものなどを持参頂いている。転倒のある方についてはその都度、物品等に配慮させて頂いている。	電動ベッド、冷暖房エアコン、洗面台、クローゼットが備え付けられ、利用者の使い慣れたものとして、テレビ、小箪笥、収納ケース箱、ぬいぐるみなどを持参し、家族写真や家族の作った刺繍を飾り、自分の部屋として馴染んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等、わかりやすい表示をしたり、表札を付けたり、飾りつけを行なっている。夜間のPトイレの位置や杖の置き場所等の配慮のしている。		